

---

half moon

蒼山

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

half moon

### 【Zマーク】

Z5528D

### 【作者名】

蒼山

### 【あらすじ】

夜の学校で月を眺める「俺」の思考を静かに綴つた短編小説……。

夜の学校……と、いうのは意外と楽しいものだ。  
幽靈やら何やらというイメージが強いかもしれないが、別に怖くは無い。

少なくとも俺は、  
むしろ安らぐ。

勿論、一人つきりだ。

一人でないと意味が無い……様な気がする。

勉強でも、スポーツでも、遊びでも、何においてもやる気が出ない俺は、人付き合いが大の苦手だ。人間関係ではよく悩む。

まあ原因は全て、内氣でクソなこの俺にあるワケなんだけど。  
つていうのは自他共に認めてるハナシであるワケなんだけど。  
そんなこんなで、俺は学校が嫌いだ。

一言で言つと、俺は「浮いている」存在だ。

正直、もう学校には行きたくない。

何かもう全部どうでもいいから兎に角自分の世界に籠らせて……つて感じで。

要は兎に角現実逃避させて……つて感じで。

でもそんな俺を癒してくれるのは、実は夜の……学校、だつたりするワケで。

そんなこんなで、俺は今夜もまた、夜の学校に忍び込んだ。

俺しか知らない、俺にぴつたりの場所……そんな場所が、ここにはある。

誰にも邪魔されることの無い、自分だけの場所だ。

俺はゆっくりと歩き、いつもの場所に到着した。

学食へ行くときに通る廊下だ。

その廊下は吹き抜けになつていて、夜来ると気持ちいい。

タイミングが合えば、見上げた先に月が見えることもある。

俺は座り込み、壁にもたれ、そして上を見上げた。

「あ…………」

見上げた先には、綺麗な半月があった。

……月。

太陽よりもずっと纖細で、程よく輝いていて、そこから発する光は

何と言うか、非常にベタな、下らない表現なのだが、自分の全てを癒してくれる、そんな気がするのだ。

この場所で月を眺めているだけで、心が洗われる様な気がするのだ。昼間のこの場所の喧騒は多分、放射熱の様にこの場所に留まり続けるのだろう。

しかし夜になると、月の光でその熱が冷める。

その現在進行形で冷めているその空気が、俺は好きなのだろう。きっと。

夜の学校で月を眺めるつていうのは少し幻想的な雰囲気だ。もしかしたら俺はこのどこか現実感の無い幻想的な時に逃げ込んでいるだけかもしれない。

いや、きっとそうだ。

でも…………。

夜が明けるまで、何時間もずっとここにいたい。

俺がそう思ったその時だった。

ポケットで、ケータイが振動した。

自分がセットしておいた、アラームだ。

その时限爆弾で、一気に俺の幻想世界は壊れ、現実世界に引き戻される。

……わかっているのだ。

幻想世界にあまり長く居続けることは良くないと、自分でもわかっているのだ。わかっているけど、どうにもならない。

だからまた逃げる。

このままだと、永遠に続く。

永遠に逃げ続ける。

でも、行けども行けども、追いかけてくる。

何が？

何か。

それしか言いようがない。

それが、今戦うべきものなのだ。

その戦いこそが、今すべき事なのだ。

そう思つていながら、逃げることを俺はやめられない。

時が過ぎて、もしまだ俺が逃げていたとしても……あの月は、俺を慰めてくれるだろうか。

そのとき夜空を見上げても、見上げた先に確かに月はあるだらう。でもその月は、本当に俺を癒してくれるだろうか？

月はただ俺を……

ただ俺を照らしている。

それだけなんじやないだろうか。

そのとき俺は、月の光の癒しを感じないほど……

どうしてみんななくなつているんじやないだらうか？

(後書き)

どうも、蒼山です。

なんかもう途中で何書いてるかわからなくなりましたよ。……まあ毎度のことですけど。

つてゆーか小説ってこいつらかはじかかとこいつ詩に近く感じがしますがまあほつとこへださること。それではまたの機会に。

ああ、もう後書きもめりへやじやねえか……。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5528d/>

---

half moon

2011年1月19日14時35分発行